

麻生あその由ゆ来らい

むかしむかし、三体地藏さまを本尊としておまつりして、深く信仰しているお坊さんが、諸国巡礼しよこくじゆんれいの旅をしております。

あるとき、少し小高い丘の上に数戸の民家がありました。その部落のまわりは松林でかこまれ、西の方には、少し離れて大川が流れており、大変景色のよいところでした。が、民家のまわりには草が茫々ぼうぼうと生え、屋根の上まで草が長々と生えておりました。

その草やぶの中の家々から、うなり声や苦しい息づかいが聞こえてきましたので、このお坊さんは足を止め、どうしたのだらうかと、尋ねたずようとあたりを見廻まわしましたが、外に出ている人が見あたりませんでした。

すると、ある家のかげから人々の話し声が、聞こえてきました。話し声の方に歩いて行くと、ヤタという人が住んでいたと伝えられる屋敷あとにある、俗にヤタの井戸といわれ